

I 地形・歴史 Topography & History

1 地形等

市の東北端に位置し、北部は双葉郡、南部は四倉地区と隣接している。

東は県立自然公園波立海岸を中心とする風光明媚な海岸線と天然の入江を利用した久之浜港を有しており、西北は阿武隈高地が連なる約 8km に及ぶ三ツ森溪谷を擁した豊富な森林地帯を形成し、市民のレクリエーションの場になっている。

大久川流域周辺の中生代白亜紀(約 7 千～8 千万年前)の地層からは、フタバズキリュウや巨大アンモナイト(本州最大 85 センチ)等の化石が発掘されるなど、四倉地区高倉山周辺とともに学術上貴重なところである。平成 3 年度には「ふるさと創世事業」の一環として「海竜の里センター」、平成 4 年度には「アンモナイトセンター」が設置され、地域振興策の一役を担っている。

2 歴史

先土器(石器)時代(BC12000 年以前)の遺物や縄文時代中・後期(BC3000 年～BC2000 年)の田之網貝塚などが発見されており、早い時期から人々が生活していたことが証明される。

平安時代末に常陸平氏の流れを汲む岩城氏が土着して勢力を伸ばし、好嶋荘の地頭としての役割を負ったが、好嶋荘の東荘には「末次」の名前の村があることから、当地区はその支配下にあったことが推測される。

建武元年(1334)北畠顕家は、焼失した飯野八幡宮の造営を好嶋荘の東西の地頭に命じているが、八立村地頭岩城次郎入道願真の名がある。

戦国時代は、領国拡大に死闘を繰返した時代。飯野平城を本拠とした岩城氏は、天文 3 年(1534)相馬氏と国境の木戸・金剛川(楢葉町)付近で合戦になった。文禄 4 年(1595)岩城領検地では、小ひさ村 506 石、大ひさ村 1,215 石、すゑつき村 415 石、金ヶ沢村 73 石とある。

関ヶ原の戦いの後、慶長 7 年(1602)鳥居氏が磐城平藩主となり、当地区もその支配下に置かれる。

延享 4 年(1747)内藤氏の延岡転封により、当地区は幕領小名浜の管轄になるが、小久村は寛政 2 年(1790)新発田藩、天保 7 年(1836)棚倉藩、嘉永 3 年(1850)多古藩領になり明治維新を迎えた。

(参考文献:「いわき市史」、「新しいいわきの歴史」)

※行政区域の変遷

1868年 (M元) 現在

